

見えないものに目を注ぐ

4:18 Corinthians II

コリントの信徒への手紙 二 第4章18節

片岡 輝美 会津放射能情報センター代表

1961年福島県生まれ。1985年、夫である片岡隆也牧師の日本基督教団若松栄町教会着任のため放談会津若松へ。子どもは息子4人と長男の妻。2005年九条の会・西条町学習会を結成。「自分のこばで平和を語る」をモットーに月例学習会やピースワークや講演会などを企画。2011年3月15日から2週間、義弟宅（三重県鈴鹿市）に四男、妹親子と避難。会津若松に戻り、放射能から子どものいのちを守る会・会津（5月）と会津放射能情報センター（7月）を設立し、代表となる。著書「今のいのちを守る」（日本基督教団出版局）ほか多数。



執筆著：前列中央

「お母さん、泣けてきちゃうよ。雪は積み上げて脇に寄せれば、人も車も安全に通ることができるけど、放射能はどこにあるのか、分らない。雪は春になれば溶けてなくなるけど、放射能は永遠になくならない…。」。2012年大雪の朝、除雪作業から戻ってきた息子の言葉です。2011年3月11日に東京電力福島第一原子力発電所で起きた大事故により、夥しい放射性物質が拡散し、風に乘着て舞い上がり、雨や雪によって大地や河川、町々を汚染しました。放射性物質には原境など関係ありませんから、もはや福島県だけの問題ではないことは、みなさんご承知のことでしょう。

「見えないものに目を注ぐ」は、婚約の記念として夫に贈った聖書に書き記すほど、私の大好きな聖句でした。「でした」と過去形に変わったのは、「目に見えない」放射能を常に意識しなければならない闘いが、あの時から始まったからです。さらに、「目に見えない」相手は他にも存在しました。原発事故直後から始まった「安心・安全キャンペーン」は、それを信じる人と信じられない人との間に深い分断を生み出しました。住民の抗議にも拘わらず、「復興」のうねりの中、避難勧奨地点は解除され、住民帰還が促されています。「原発事故を過小評価し、再稼働を目論む存在」は、その力をますます強めています。

今日も原発事故サイトでは、作業員約6000人が困難を極める廃炉対策に従事しています。私には、ただその

The Salt of the Earth, The Light of the World

幼稚園より

卒園礼拝（年長児）

3/9月 説教 シューストール（学院宗教部長）

終業礼拝

3/12木

卒園式

3/13金

始業礼拝

4/7火

入園式

4/10金

（教諭 連見 洋美）

初等部より

卒業礼拝（6年生のみ）

3/9月 初等部米山記念礼拝堂 説教 小澤 淳一（初等部宗教主任）

6年生を送る礼拝

3/16月 8:25～8:50 初等部米山記念礼拝堂 奨励 戸井田 直人（初等部教諭）

フィリピン訪問プログラム

3/24火～30月 訪問先：フィリピン（ルソン島、ネグロス島、パナイ島、ギララス島）

イースター礼拝

4/10金 8:25～8:50 初等部米山記念礼拝堂

お母さんへの感謝の集い

5/13水 11:00～12:00 青山学院講堂

（宗教主任 小澤 淳一）

中部部より

卒業礼拝

3/12木 講師 関根 義夫（元晴和病院院長、精神科医）

CF（クリスチャン・フェロシッ）活動

4/7火 校内清掃奉仕活動

春の教職員修養会

4/8水 13:30～15:00 講師 杉田 紀久子（幼きイエス会シスター）

新入生オリエンテーションキャンプ

4/13月～15水

イースター礼拝

4/24金 9:20～10:30 青山学院講堂



母の日・家族への感謝の日礼拝

5/15金 10:20～12:00 青山学院講堂

（宗教主任 西田 恵一郎）



表紙写真

夕陽に坐る高等部PS講堂

日本福音自由教会協議会 立川福音自由教会

神田 信輔

高等部教諭



国営昭和記念公園の所在地で知られているJR中央線は立川。さらに某有名マンガ「聖☆おにいさん」の舞台でもあるシネマ通りに位置するのが、私の母教会である立川福音自由教会です。「立川チャペル」の愛称で親しまれ、アットホームな雰囲気特徴です。

「キリストの愛にやすらぎ、いやされ、成長する」というテーマのもと、神様の計り知れない愛のご計画をこの身にたっぷりを受けて、そうして初めて神の国の大使として個々の職場や家庭に遣わされていく。天の御国は、今この時から始まっているのだ、ということを感じつつ行動していく共同体です。写真の礼拝堂正面のステンドグラスは、「新しい天と新しい地」を表現したものです。それは天と地がひとつになり、神の平和がこの世界に完成することをイメージしたもので、私たちはその神の平和をこの地に広げるように召されていることを覚えるのです。

毎日曜日、朝、夕、二回の礼拝があります。朝の部は、伝統的な讃美歌を中心に家族連れが多く、夕方の部はより現代的なワーシップングが歌われています。私が高校生生の頃はとにかく一日中グラダラと入り浸り、友と語るより楽器を弾くなりました。教会の発足以来、2013年までの

24年間はプレハブのような建物を借りていました。その期間を「まるでイスラエルの民が荒野でさまよった40年のよう」と表現する方もいます。しかしついに約束の教会堂が与えられ、新たな歩みを始めました。集う一人一人が小さなキリストとして互いに仕え合い、その交わりを通して神様の愛が現されるように願っています。牧師である高橋孝典先生は、以前は証券会社の海外の支店で働いておられたこともあり、斬新な切り口と深い理解をもってその任にあたって下さいます。新約聖書は、旧約聖書の成就であるということを念頭に、適切な旧約理解と新約へのスムーズな接続を肌で感じることができます。また、常に折りをもって支えて下さる、そんな温かい先生です。

都会の慌ただしいペースに身を任せ、気が付けばその波に飲み込まれそうになる毎日。しかし敢えてあらゆる生産活動から一旦手を休め、教会へと足を運んでみる。そこには、比較や成果主義を超えた祝福の源が、きっと私たちを迎えてくれることでしょう。

バッハ・コレギウム・ジャパンとの出会い

浅見 真人 本部宗教センター相模原分室

みなさんは、J.S.バッハ(Johann Sebastian Bach)という名前を聞いて、どういうイメージをお持ちでしょうか。初等部や中等部のお友達の中には、ついこのあいだ音楽の授業で習ったり、バッハのCDを聴いたりした人もいるかもしれません。

わたしにとって最初のバッハの思い出は、小学校のとき、あの薄暗い、入るのがためられるような、そんな音楽室での出会いにさかのびます。音楽室の壁の高い位置に偉大な作曲家の肖像画がいくつも並んでいて、その中に「音楽の父」と習ったバッハもいたわけです。いかめしく怒ったような顔をした、地毛がカツラかわからない長髪のおじさんで、今のポップなミュージシャンとは真逆な雰囲気の人でした。他の肖像画も同じで、音楽室全体が醸し出す重苦しさに耐えられず、幼心に音楽室イヤだ、行きたくない、そんな気分になっていました。音楽室自体好きになれなかったわけですから、わたしにとってバッハとの出会いはつまり、音楽は嫌いだ、といった最悪の状況での出会いだったのです。（今は音楽室は明るいのでしょうか。）

そんなわたしが前任者から引き継ぎ、バッハの演奏では世界屈指の団体と言われるバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)に間わって11年。このことは、自分がクリスチャンになったことと同じくらい驚くべきことかもしれません。大学でグリーン・ハーモニー合唱団に所属するなど、音楽への思いがそれなりに変化していったことは確かですが、事務職員としてBCJレクチャーコンサート担当になった当時は、昔のまま、少なくともバッハに対する知識はほとんどないに等しく、戸惑いを覚えたことを思い出します。まして、BCJ音楽監督の鈴木雅明先生は、風貌だけを取り上げれば、それはそれ

は威厳があつていかつい感じで、あのバッハとダブって見たことは言うまでもありません。でもコンサートのための会場設営のあいだ、本番に向けたリハーサルや鈴木先生の声を耳にするにつれ、古楽器と合唱が奏でるバッハとバロックの世界の魅力、その雰囲気、暖かさに、今まで知らなかったバッハに対して、なぜか自然に親しみを感じはじめている自分がそこにはいたのです。今では毎年、都内で開催されるバッハ・セミナーに参加するようになってしまいました。

青山学院大学におけるBCJレクチャーコンサートは授業の特別講座として学生や教職員は言うまでもなく、短大生や高中部の生徒、校友をはじめとした一般の方々からも広く支持され、長く続いてきました。キリスト教に初めて触れる学生たちに鈴木先生の興味深いお話と演奏をとおして、バッハが語るうとしたキリスト教音楽に親しんでもらいたい、という強い思いがそこにはあります。しかしそれ以上に、鈴木先生のお人柄と音楽に対する真摯な思いや熱い情熱、なによりも先生の深いキリスト教信仰という基盤が、このコンサートを一層魅力あふれるものになっていることは論を俟ちません。まだ聴いたことがないという方、ぜひ一度、この魅力を体験していただきたいと、わたしは心より願っています。

青山学院大学 青山スタンダード科目「キリスト教理解開講科目」特別講座
バッハ・コレギウム・ジャパン
レクチャーコンサート
2015年6月5日(金)18:30開演(予定)
会場 青山学院講堂
J.S.バッハ 教会カンタータより



特別公開講座／青山学院の礎石を築いた人々

高砂 民宣 大宗教主任

昨年の11月15日(土)、国内外から約1500人の関係者が青山学院講堂に集まり、学院創立140周年記念式典が挙行されました。記念式典および記念事業の報告については、「青山学報」第250号に詳しく綴られていますので、そちらをお読みください。ここでは昨年の9月27日から10月25日まで、5回にわたって開催された「特別公開講座／青山学院の礎石を築いた人々」についてご報告させて頂きます。

この公開講座では、青山学院の源流となる3つの学校(女子小学校、耕教学舎、美會神学校)を建てた3人の宣教師たち、およびその協力者である2人の人々の貴い働きについて、詳しく感動的なお話がなされました。

第1回は梅津順一先生(院長・大学総合文化政策学部教授)により、「ロバート・S・マクレイ宣教師―中国伝道を中心に」という題で講演が行われました。マクレイ宣教師(以降、マクレイ博士とお呼びする)はメソジスト監督教会の日本伝道の父とも呼ぶべき存在です。マクレイ博士は日本上陸以前、中国の福建省の省都である福州で、20年以上にわたって伝道に従事されました。中国の近代化、文明化のためにはキリスト教精神が重要であることを確信し、福音伝道に励み励まれました。この貴重な経験を基に、日本伝道は推進されました。しかし梅津院長のお話によると、1959年に青山学院から刊行された小冊子「マクレイ博士伝」以外には、まとまった研究が見受けられないとのこと。そこで梅津院長は夏休みの期間、実際に中国の福州へ赴かれ、現地調査を行いました。マクレイ博士の最初の伝道地であった福州に建てられた天安堂教会を始め、現在も存立している教会や神学院など、数々の写真をスクリーンに映し出しながら、興味深いお話をしてくださいました。伝道と共に、近代国家の建設を視野に入れた初代青山学院院长ロバート・マクレイ博士の夢は、第二代院長の本多庸一先生へと受け継がれます。中国伝道と日本伝道の類似点や相違点など、様々なことを考えさせられる講演でした。

続いて第2回は「ドロー・E・スクーンメーカー―青山学院の歴史を拓いた宣教師―愛と奉仕に生きる」という題で、吉岡康子先生(女子短期大学学長・現代教養学科学准教授)によって講演がなされました。スクーンメーカー

宣教師は8歳の時に、最愛の妹ルーザを亡くしています。その頃、日曜学校に通う子どもたち、特に少女たちの間でベストセラーとなっていた「ハリエット・ニューエルの生涯と著作」(アメリカ日曜学校連盟から出版)を読んで感銘を受け、将来は宣教師になりたいとの志を母親に告げています。19歳で公立学校の教師になります。そして83歳にメソジスト監督教会が日本伝道を開始すると、彼女は婦人海外伝道局に宣教師志願を提出しました。その翌年、23歳の時にサンフランシスコを出港して横浜に到着。わずか2週間後には女子小学校を設立し、青山学院の礎石を築いています。日本滞在は5年間でしたが、計り知ることのできない大きな影響を人々に与えています。アメリカに帰国した直後、海岸女学校(女子小学校の後身)の校舎が火災で焼失すると、直ちに再建築金活動に奔走しています。その中で82歳で死去するまで、婦人海外伝道局のメンバーとして活動を続けました。講演の最後に吉岡先生は、スクーンメーカー宣教師からのたききは、「共に生きる」という点で短大のシオン寮に、「奉仕に生きる」という点で東日本大震災の被災地支援活動に受け継がれている」と言明されました。

第3回は「ジュリアス・ソーバー―青山学院の人格教育の礎」という題で、シェー・W・リディー先生(学院宣教師・大理工学部教授)が講演されました。リディー先生は数年前、ドゥルー大学にあるアーカイヴ・センターを

訪れましたが、その時に得た資料や写真などをスクリーンに映しながらお話をしてくださいました。ソーバー宣教師はドゥルー神学校で学ばれましたが、そこでジョン・キャロル・デヴィソンと出会います。このデヴィソンと共に宣教師として日本に派遣されましたが、ソーバー宣教師はデヴィソン宣教師の妹であるメアリーと結婚しています。日本におけるソーバー宣教師の働きを支えたのは津田仙であり、津田家で行われたパイブルクラスを通して、多くの受洗者が与えられました。津田夫妻を始め、12人の子どもたち、後には吉川正雄、榎本武揚などもソーバー宣教師から洗礼を受けています。1878年に耕教学舎を設立しましたが、彼が育てた教育者の中には、同志社の校長を務めた小崎弘道も含まれています。優れた人格者で、多くの人々をキリスト教信仰へと導きました。ソーバー宣教師の働きを記念して、数年前にソーバープログラムが立ち上がりしました。これは将来、キリスト教学校



地の塩、世の光 THE SALT OF THE EARTH, THE LIGHT OF THE WORLD / MATT.5.13-14

WESLEY HALL NEWS 117TH EDITION MARCH 9, 2015

道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださるとき、わたしたちの心は燃えていたのではないかと。

北方 24・32

ある兵士の祈り

大きな心を成し遂げるために力を与えてほしいと神に求めたのに、謙遜を学ぶように弱いものとされた。よけ偉大なことができるように健康を求めたのに、よいよいことができるようにと病気を戴いた。幸せになろうとして富を求めたのに、賢明であるようにと貧しさを授かった。世の中の人々の賞賛を得ようとして成功を求めたのに、神を求め続けるようにと弱さを授かった。人生を享楽しようとするものを求めたのに、あらゆることを喜ぶようにと命を授かった。求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられた。神の意に添わぬものにも拘わらず、心の中の言い表せない祈りはすべて叶えられた。私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福されたのだ。

(渡辺和子訳)

ニューヨーク市イースト・リバー沿い、34番街にあるニューヨーク州立大学病院物理療法リハビリテーション研究所の受付の壁にある、南部連合(アメリカ南北戦争における南軍)の無名兵士の詩、病院の病室に残されていたものという。

編集後記

ウェスレー・ホール・ニュース第117号をお届けいたします。お忙しい中、玉稿をお寄せくださった執筆者の皆様に心より感謝申し上げます。それぞれの文章が我らの主イエス・キリストに対する揺るぎない信仰によって裏打ちされていて、校正者のひとりとして心洗われる思いが致しました。まもなくイースターを迎えます。復活の主が青山学院を永久に祝福してくださいことを祈ります。

(大谷経済学部教授 橋本清一)

Wesley Hall News 第117号
2015年3月9日発行
発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 シューストール
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL:03-3409-6537(ダイヤルイン)
(URL)http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
(E-mail)agcac@aoayamagakuin.jp
印刷 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 株式会社 万全社

説教

永遠の大牧者であるイエス・キリストのもとで

ヨハネによる福音書 第21章 15～19節

かつて最後の晩餐の席上で、主イエスはペトロに次のように言われました。「わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることはできないが、後でついて来ることになる」(ヨハネ13:36)。するとペトロは、「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら命を捨てます」と豪語したのでした。しかし、いざ主イエスが捕えられ、ここ一番という時になると、ペトロは自分が弟子であることを三度も否認してしまうのです。

その後、主イエスは御自分が予告されたとおり、十字架に掛けられ殺されます。しかし、かつての約束どおり、三日目に死人のうちより甦り、弟子たちの前に現われてくださるのです。そしてご自分を裏切った弟子たちと共に、再び食事をされました。それによって主イエスは、弟子たちを赦してくださいましたのです。

たか さと たみ のぶ
高砂 民宣

大学宗教主任

牧会という大切な任務

復活された主イエスは、ご自分を三度知らない否認したペトロの罪を帳消しにするかのように、三度も「私を愛しているか」とお尋ねになります。繰り返し三度も問われたペトロは、心を痛めました。彼は一度目と二度目に、「はい、主よ、わたしがあなを愛していることは、あなたがご存知です」と言いました。しかし三度目には、「主よ、あ

なたは何もかもご存じです」(17節)と付け加えています。ペトロは既に、自分自身よりも己のことを知っておられる主イエスに、一切を委ねています。思えばそれが自信といったものがすべて粉々に打ち砕かれ、ただひたすら主に寄り頼む謙虚なペトロの姿がここにあります。

復活された主イエスは、悔い改めたペトロに、人々を導き、世話をするよう、お命じになります。こ

れは驚くべきことです。主イエスはペトロを救すだけでなく、牧会という重大な任務を彼に委ねておられるのです。

主イエスは一度目と三度目に、「わたしの羊を飼いなさい」と言われました(15、17節)。しかし二度目には、「わたしの羊の世話をしなさい」と言っておられます(16節)。新約聖書の原典はコイネー・ギリシア語で書かれていますが、「飼う(ボスコ)」という語には、餌を与えるという意味が含まれています。牧者には、御言葉という命の糧を、人々に与える使命があるということです。一方、「世話をする(ボイマイノー)」には、「治める」という意味が含まれています。このように、主イエスが「飼う」と「世話をする」という二つの言葉を使い分けられたのは、牧会という業が、多様な要素を含んでいることを示すためでした。命の糧である御言葉を分け与えると共に、教会という信仰共同体を治める、導くということです。

人間が想像もしない仕方で

復活の主イエスは、神の羊の群れを牧するよう、ペトロにお命じになりました。その御命令に続いて、主イエスは謎めいた言葉を語られます。「はっきり言っておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。し

かし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる」(18節)。主イエスはここで、将来起こるペトロの殉教の死を予告されます。古代教会の人々は、特に「両手を伸ばして」(18節)という表現を、十字架上の殉教を意味していると解釈しました。ペトロが十字架について殉教したということは、三世紀に著された教父テルトゥリアヌスの文書に出てきますが、聖書には直接書かれていません。しかし、この箇所をその証拠と見なす人たもいます。

ともかく、ペトロは殉教によって神の栄光を現す者となるのです。先ほど触れたように、かつて主イエスは、「わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることはできないが、後でついて来ることになる」と予告されました。ペトロが想像もしなかった仕方で、この予告は実現するのです。主イエスが捕えられた時、主を見捨てて逃げてしまったペトロでしたが、彼が将来、殉教の死を自ら進んで遂げる者となることを、主は既に知っておられたのです。

一人の人間の魂のために

同じ「ヨハネによる福音書」の10章には、主イエスこそ永遠の大牧者であることが、譬えを通して

分り易く述べられています。主イエスはここで、御自分を羊飼いに譬えて言われます。「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」(10:11)。絶体絶命の大ピンチの時、良い羊飼いは自分の命を投げ出しても羊たちを守る、ということです。狼や猛獣が羊たちに襲いかかって来る時、良い羊飼いは体を張って羊を守るのです。この姿は、主イエスの十字架を指し示しています。ご自分の命を犠牲にしてもでも、私たちを愛し、私たちの身代わりとなって十字架にかかってくださった主イエス。ここに神の愛(アガペー)があります。私たちはこの大いなる愛を頂いた者として、互いに愛し合い、仕え合う者となるのです。

「教会」とはドイツ語でゼールゾルゲ、すなわち「魂への配慮」とも訳されます。一人の人間の魂のために心を注ぐ配慮、それは21世紀の現代社会において、いよいよ重要な課題となって来たと言えるでしょう。『教会学』の著者であるトゥルシアイゼンは、魂への配慮の担い手は牧師だけではなく、教会に生きる全てのキリスト者の課題である、と述べています。このことは、私たちの学院においても当てはまることです。永遠の大牧者であるイエス・キリストのもとに、私たちは互いに魂への配慮を行なう群れでありたいと祈願します。

特集 君の夢に向かって――卒業

神様に与えられた賜物を輝かせて

みす だに れい こ
水谷 玲子
幼稚園保護者会会長



小さな娘の手を握り共に幼稚園に通う日も、あとわずかになりました。振り返ると笑顔輝く子どもたちの愛おしい思い出がよみがえります。

40名の園児たちは、幼稚園の3年間を通じてたくさんの愛に包まれて過ごしました。神様の豊かな愛と見守りをもつも感じながら、好きな遊びに出会い、友だちに出会い、心も身体もたくましく成長しました。先生方はいつも一人一人の声に耳を傾けられ、愛をもって丸ごとその存在を受け入れて下さり、それぞれが神様から与えられている賜物を存分に発揮できるようにと、子どもたちを信じ見守って下さいました。

祈り方を知らなかった年少組のはじめに「小さいお手々を組み合わせて、こうしてお祈りしましょう」と歌に合わせて手を組んでいた子どもたちは、毎日の祈りを重ねていくうちに、一日の終わりに感謝すること、仲間のために祈ることを身につけていきました。昨年6月に退任された山北園長先生とのお別れのとき、年長組の男の子が、「かみさま どうぞ やまきたせんせいを これからもずっと まもっててください。」とお祈りました。その素直で純粋な祈りの言葉に、心を洗われる思いがしたのは決して私だけではないと思います。

娘も娘も、入園当初泣きながら先生に連れられて保育室に入って行ったのがうそのように、半年も経たないうちに私を振り返りもせず夢中になってお友達と遊ぶようになりました。年中組になるとお友達と大声で喧嘩が出来るようになり、年長組になると自分より小さい組のお友達のお世話が大好きになりました。成長させて頂いた娘と共に卒業させて頂くのは、私も一人の母親として万感の思いです。

人には皆、神様から与えられた役割があります。3年間大切に育てて頂いたそれぞれの賜物を、これからの歩みの中で子どもたちがさらに磨き輝かせて、地の塩、地の光としてその役割を果たして行ってくれることを、心から祈りつつ見守って行きたいと思います。

おほ の の か か
大野 萌夏
初等部4年



去年の女子スポーツクラブの合宿の時でした。合宿がきらいな私は、行きのバスから泣いてしまいました。不安でさみしくなったそんな時、今の六年生のお姉さんがすぐそばに来てくれて、なぐさめてくれました。とても心がほっとしました。心があたたくなりました。

今でも学校内で会うと、「もえか〜」と笑顔で声をかけてくれます。それがとてもうれしいです。私もお姉さんみたいに、泣いていたり、さみしくなっていたりする下級生をみついたら、ぜったいに同じ事をしてあげたいと思いました。

私が笑顔にしてももらったみたいに、下級生を笑顔にしてあげたいです。

い が り し けい こ
五十嵐 結奈
初等部6年



六年間の初等部生活の中で、私は神様を信じ、となり人を思いやる心を毎日実感しています。

初等部生は、様々な行事で上級生として下級生に優しく教えながら、人への思いやりを身につけます。また、礼拝や日々の祈りを通して神様を大切に思う心を養います。私は小さいころから教会に通っていて、そこで私が大切に思ってきた事と初等部生としての学びが同じなので、安心して毎日を過ごすことができました。

宗教の授業では、命をかけてまで信仰を守り通した人々のことを学びました。私は授業を通して、キリスト教の教えの大切さを、人としての正しい生き方を改めて知ることができました。

私はまだそこまで強い信仰を持っていません。でも、青山学院に通う者として、これからも神様と人を思い、日々の祈りを大切に成長したいと思います。

あき やま たく
秋山 拓
中等部3年



「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」(IIコリント 4:18)

中等部に入學してからもう3年が経ち、卒業を迎えようとしています。入學式から始まり、学年旅行、運動会、中等部祭、クリスマス礼拝など毎年多くの行事がありました。それら全ての行事においていかなる時も「礼拝」が行われてきました。入學して初めての礼拝の時、オルガンの前奏から始まり、讃美歌、聖書朗読、祈禱、頌栄、後奏で終わりと流れる礼拝を、これから毎日15分間しているのだと驚いたことを今でも覚えています。

3年間、毎日礼拝を行ってきた今では、入學当初わからなかったことや驚いていたことが当たり前のようになっています。そんな礼拝を始めから終わりまで支えるオルガンの音色が、僕は好きです。オルガンで弾かれる前奏を聴くと心が落ち着き、礼拝を始めるための心の準備をすることができま。礼拝はたった15分と短い時間ですが、聖書朗読の際、読まれる聖書箇所やそれに伴う先生方のお話から様々な教訓などを学ぶことができます。

冒頭で紹介した聖句は中等部に入學して初めての聖書のテストで暗記をした聖句で、その時以来とても印象的で心に残っています。「見えないものは永遠に存続する」という部分の見えないものとは、礼拝を通して神様と会話することではないかと思います。神様と会話するとは、実際に会話することではなく、聖書を通していろいろな教えにふれたり、学んだり、お祈りすることです。

これから、困難に直面することがあっても、中等部の礼拝の時間に学んだ「永遠に存続する見えないもの」に助けられて、乗り越えていきたいと思っています。中等部を卒業してから、礼拝の時間を大切にしていきたいです。

やす の か りん
安野 花凛
高等部3年



卒業を目前に控え、青山学院での学びの時がどんなに大切なものであったかを実感しています。

私は幼稚園から青山学院で学び、この15年間の学校生活を振り返ってみるとあつという間でしたが、これまでの歩みを神様がいつも守ってくださったことに、心から感謝しています。「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイ7:12)という聖句を、幼稚園の頃、先生に聖書のお話で教えていただいたてハッとしたことを覚えています。人に何かをしてもらうことが当たり前のように思っていた幼い自分が、漠然と人に何かをしていくことへの目覚めを感じたことを覚えています。

幼稚園から高等部まで、それぞれの学びの中で出会ったことができた数々のかけがえのない友人たちから、沢山の愛を与えられてきました。高等部で出会ったクラスメイトは個性豊かな人ばかりでしたが、クラスにはお互いの個性を大切にし、どんな人でも受け入れる雰囲気をもっていると感じていました。そのような温かいクラスメイトや友人に囲まれて学校生活を送っていくうちに、他の人を受け入れるという姿勢がまだ自分には十分にできていないことに気づき反省しました。このように省みたことは、自分の個性を受け入れてくれる人がいたことが私にとって喜びであり、その喜びを他の人にも与えていきたいという気持ちに繋がります。幼い頃に出会った御言葉の意味を深く理解できたような気がします。

私たちが生きているこの世界は、グローバル化が進む一方で、貧困や環境破壊など見過ごしてはならない様々な問題が山積しています。これらの解決策を見いだしていく根本の姿勢として、私たちはまず他人が抱えている問題を自分のものの様に捉えていくことが求められているのではないのでしょうか。高等部を卒業し、新たな学びにふれる中で、これまで与えられてきた愛に感謝しつつ、自らも他者に愛をもって、世界中の一人一人の希望が満ちていくような社会を築けるように願っています。

はん だ わか な
半田 若菜
女子短期大学 現代教養学科2年



卒業後、私は地元就職をし、福祉の道に進みます。入學前には考えてもいない職でした。この2年間で私の考え方を大きく変えてくれました。この仕事に出会ったきっかけは、キリスト教の学びです。病氣の入を癒すイエス様はその病氣を治すどころか元気まで与え、心身ともに回復させます。キリスト教との出会いを通して、「ひとのために」何かできないか考えるようになり、福祉の道を選びました。私はハンドベル部の活動を通してキリスト教に触れました。東北被災地支援ボランティアに参加したり、教会訪問をしたりして共生、感謝、助け合いの精神を学びました。活動中は目の前のことに一つ一つ取り組み続けたのですが、それが結果として、こんなにも自分を変えています。振り返ると自分にとって大きな2年間だったのだと思います。

短大生活で一番苦労したのは就職活動です。一昨年から高校生だった自分に何ができるのか、活動中はずっと自問自答を繰り返していましたが、とうとう夏休みに行き詰りました。このまま決まらなかったらどうなるのか、一年後どうしているのか不安でした。散々考えた末、これは神様が自分に与えてくださった時間なのだ、将来についてよく考えなさいと言われていたのだと思いました。すると気が楽になり、活動を続けられました。じっくり自分と向き合うこと、時には人を頼ることが大切なのだと思えました。また、人と関わる中で発見できる見方があることを知りました。そして、信頼できる友達に恵まれていたと思います。学校にも寮にも話を聞いてくれる友達がいきました。社会人になり、壁にぶつかることはあると思いますが、自分を変えるチャンスだと思い、神様が与えてくれた機会だと感謝し、成長していきたいです。感謝の心をいつも忘れずに、来年度からも頑張ります。

やま ざき まこと
山崎 真聖
大学経済学部4年



「大学生のクリスマスは、神様のために何ができますか?」もしこのような問いをされたら、私はこう答えます。

「信仰の継承の役割を担うことができます。」

継承とはどのような意味でしょうか? 継承とは、先代の人や身分・仕事・財産などを受け継ぐことを意味しますが、現代の混沌とした変化の多い社会では、何事も継承していくことは難しく思えます。まして、信仰という見えないものを継承することは、とても難しいことです。遺産で継承できるものでもなければ、親が信じているものを子どもが疑問もなしに信じることは考えにくいからです。そして信仰とは、神様から与えられるものであり、他者へ無理強いするようなものでもありません。だからこそ、信仰の継承は難しいのです。

私は信仰を継承し、また“大學生生活”で信仰が継承されていく様子を見てきました。だからこそ思うのです。“信仰の継承は重要である”と。

「多くの証人の前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい。」(IIテモテ2:2)

このように聖書は私たちに、信仰によって周囲にも語るように言います。大学生はその信仰の継承を、社会に出る前にできる絶好の機会です。大学生は最後の青春時代であり、さまざまな人と出会い、話す機会がある、“変わるチャンス”の時期なのです。

だからこそキリスト教のみなさん、クリスチャンであることに誇りを持ち、学生時代に出会った人に神様の話を伝えてみてくださ。あなたの一言で神様に繋がる人が“必ず”います。私もみなさんより先に社会という戦いの場で、世に負けないように証に生きて行きます!

神様なんて興味ない、と思った皆さん! これを読んだあなたにも、信仰は継承されようとしています。この私の文章を最後まで読んで下さったのです。あなたも信仰のファミリーに参加しませんか? まずはGo to church! その一歩があなたをきとつと変えます! God bless you!

高等部より

イースター礼拝
4/10 金 高等部PS講堂
説教 山元 克之(高等部聖書科)

(宗教主任 相良 昌彦)

女子短大より

卒業礼拝
3/19 木 13:30~14:30
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

宗教活動委員会
オリエンテーションキャンプ
3/27 金、28 土 伊豆天城山荘
キリスト教学校教育同盟校
推薦入学生他歓迎会

4/ 2 木 女子短期大学礼拝堂 他
始業礼拝
4/ 3 金 10:00~11:00
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

チャペル・ウィーク
5/11 月、13 水、15 金 12:35~
ペンテコステ礼拝
5/25 月 12:35~13:05

(女子短期大学宗教活動センター)

大学より

フィリピン訪問プログラム
3/11 水、20 金



卒業礼拝
3/25 水 9:00~
卒業記念パイオルガンコンサート
3/25 水 12:40~、15:40~
ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教推薦入学生
オリエンテーション
4/ 1 水 9:00~
ガウチャー記念礼拝堂他

キリスト教概論 I
オリエンテーション
4/ 2 木 12:40~、15:40~
ガウチャー記念礼拝堂

新入生歓迎礼拝
4/ 7 火、13 月
〈青 山〉ガウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェスレー・チャペル

チャペル・ウィーク
5/25 月、29 金
〈青 山〉ガウチャー記念礼拝堂
(相模原) ウェスレー・チャペル

宗教センター
1. 月 1. ルー
活動

いずれの集会も自由に参加できます。
聖書に親しむ会
わかりやすく、楽しく聖書が学べます。
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考え合います。
(宗教委員、クリスチャン教員と宗教主任担当)

(宗教センター事務局)

本部より

教職員新学年度礼拝
4/ 3 金 17:00~
ガウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務局)